

妙安寺だより 317

テレフォン法話 092-751-6

084 (毎週月曜日に話が変わります)

〔 欲令衆の解説 ① 〕

は、法華經の方便品第二、品第三、品第十、品第十一の經文より選びだしてつづられたもので、いつでも、どこでも私たちが救おうとされているお釈迦さまの願いのエッセイをまとめた經文です。

始めに、お釈迦さまは、もろもろの仏が、この世に現れた一大事の目的を示し、生きとし生ける者(衆生)に、仏の大いなる智慧をけることにあると語られました。

は、をしてを開かしめ、なることをせしめんと欲するがゆえに、世にしたもう。衆生に仏知見を示さんと欲するがゆえに、世に出現したもう。

衆生をして仏知見をらしめんと欲するがゆえに、世に出現したもう。衆生をして仏知見のに入らしめんと欲するがゆえに、世に出現したもう。

、これを諸仏は、ただ一大事のをもつての故に、世に出現したもうとく。(方便品第二)

もろもろの仏は、すべての人々が、本来備えている仏の智慧を開かせて、煩惱のけがれを取り去って清浄にするために、この世に出現されました。

すべての人々に、仏の智慧を示そうとして、この世に出現されました。

すべての人々に、仏の智慧を悟らせようとして、この世に出現されました。

すべての人々を、仏の智慧の道に導きいれようとして、この世に出現されました。

舍利弗よ。これを、もろもろの仏が、ただ一大事の因縁があるからこそ、この世に出現されたというのである。

お釈迦さまは、「小さな悟り、大きな」に落ち込んでいる人々の心を戒め、人は何のために生まれてきたのか、何を目的に生きるべきなのか、人生の本当の一大事をまず考え求めよといわれたのです。

その人生の一大事こそ、仏の智慧をマスターし、を開いて、真実を等しく見きわめ、仏の悟った真理である智慧と慈悲の心と教えをもって生きることにあるのだよ、お釈迦さまは示されたのです。

